平家物語巻第三

一 ゆゑのぼり　二丁目
二 あしどりの　六丁目
三 法さんのまれ　九丁目
付 公卿ぞろへ　十二丁目
四 大塔建立の事　十四丁目
六 新豪の事　十七丁目
七 少将都うつり　十九丁目
八 ぎをぐらの事　廿二丁目

九　鬢附しんのこと　三十一月
十　むしんのこと　三十四丁月
付　焼物の事　三十六丁月
付　金つくりの事　同
十一　法事のこと　三十八丁月
十二　大長流罷のこと　四十二丁月
付　ゆるしのこと　四十六丁月
十三　法皇せんのこと　四十八丁月
十四　城南の離宮のこと　六十二丁月

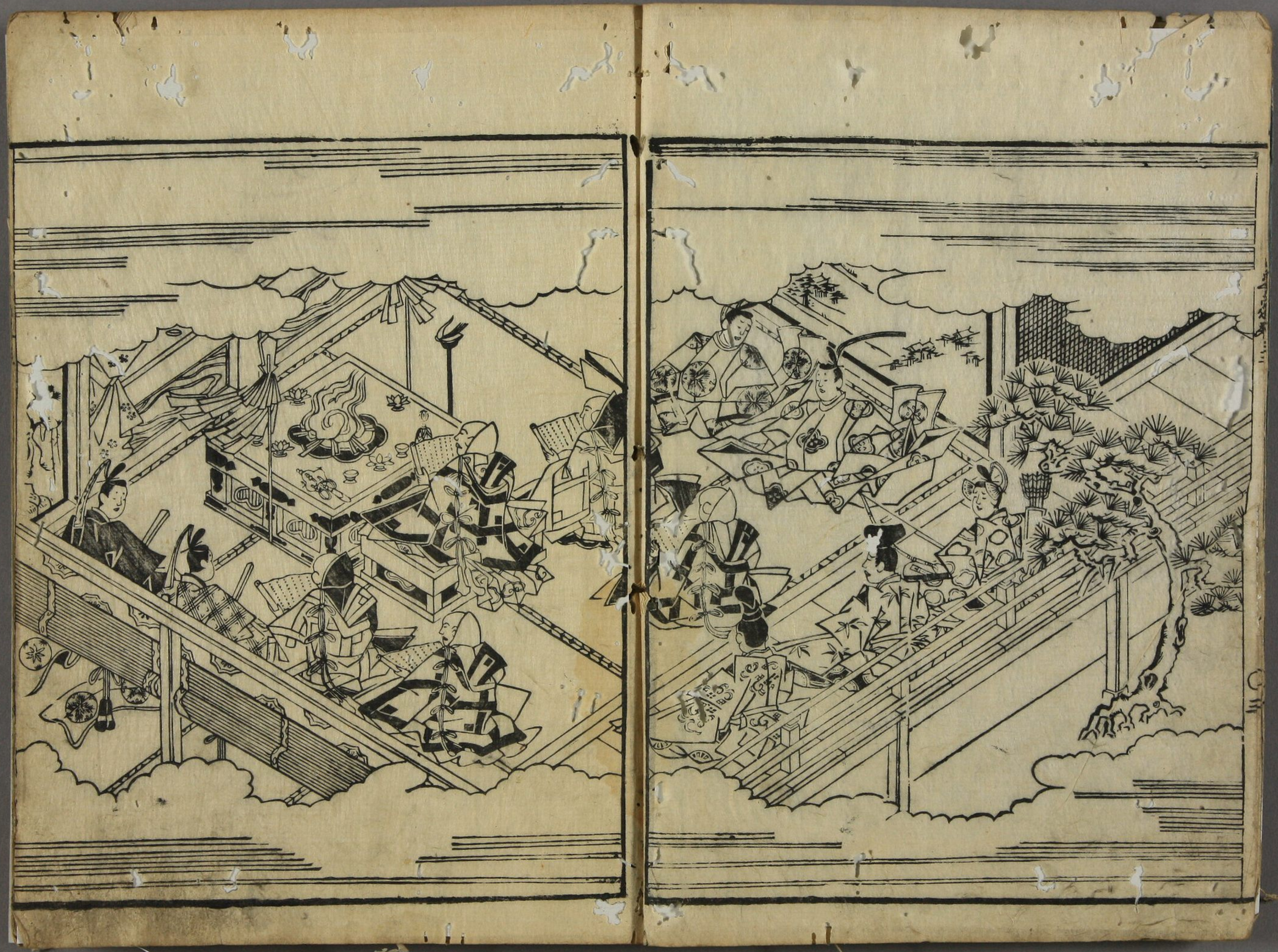
年中行事抜書第三

一　ゆるしの事

治承二年正月一日の月蝕の日なれども、あれども、
うれてゆるしの日なれども、
もしきいかりのこと、
御言ありしのゆるしの
しるしなり。
やまぶんのまうしのこと。
法皇ぜんのこと。
義仲ゆるしのこと。
ろくはらのこと。
たいらのこと。
なる。七月の日せのこと。

又帝釈堂ハ十八月ひうとまりへ道わ出ル
ゆむとめ。建仁門院それ時いまゝ中夫と宮
さきのひしゝ所あうとゝ。雲のゝへ天下のあばこ
うそそいろる法ちふ所ぢゝ絵とゝ。もち社へく
うん屋のゝと立らる。陰陽郷とうめいけ美ゝつ
うゝ大法ひ法ひ法ひうておるゝ所ゝうもせらん
うりされたゆゝゝふもゝゝゝせゝゝゝゝ
めんとゝ宮ゝゝ。ゝ上いと年十八中夫ハ廿二ゝ
ゝ宮ゝふゝうれたいまゝ宮ゝゝもひめ夫ゝ出ゝさせ
ゝゝひゝ里ゝゝそゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
平ゝ人ゝゝ平氏ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝ
延ゝうゝひゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝせゝゝゝゝゝゝ道ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



おくつまやぢさのくれのぢ
ぢんたのまつやまあんどぞ
ぢうるぢんかくまつやまとあつまやまとあ
ぢらるべーとくまびさねられ淀のはつのがーろく
ぢるとく大臣とぢーぢ。ぢうの魚さねぞーぢ魚ぞ
信行うれて左近大臣正一位とおくるぢーいか
関白これーぢぞ宮ーぢ
ぢんのこりぢ上の村ぢんゆかりの大和おいその
のちとありて幸ーふぐ芝のやのーこびきりぢう
ちーーー弱ぢくぜんやうとーーーろれぢぐーーーん
つまやーいたうれーとふーーーうんされぢさつーーのーーーいたよ
とぢぢるのーう大臣とぢ右
のちた信ふふーーーぢれーーーかんつまやーーとあぢあられー
ーーーーぢぞ宮ーーーぢんつまやーーー背ちかーーおそーーー
かりーーーの九ーーー泉淀のはーーーー

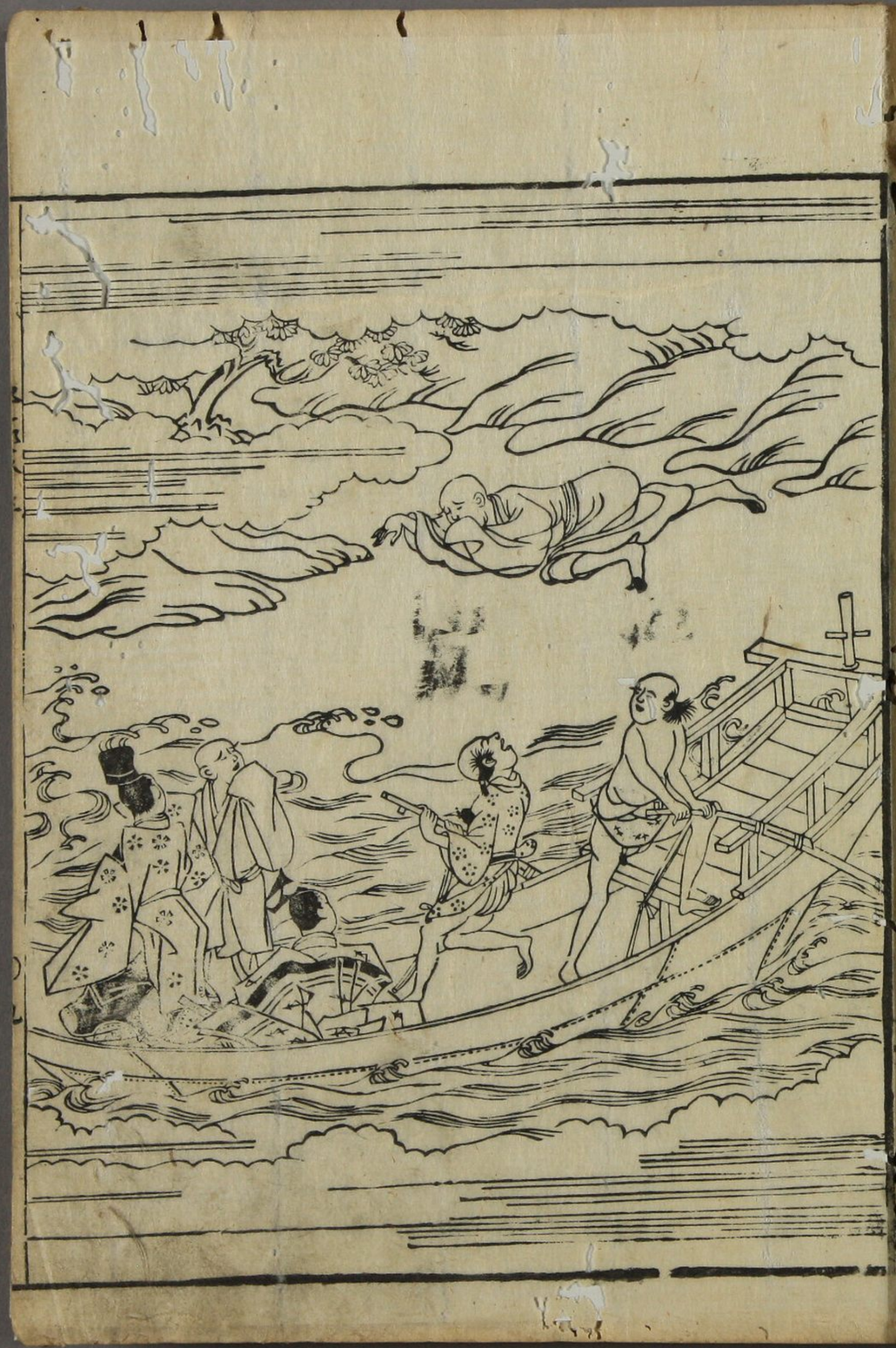
ひ[illegible]ふ[illegible]べ[illegible]ん[illegible]ぶ[illegible]ん[illegible]ぶ[illegible]ん[illegible]ぶ

いしめまい雅とくもかのあ
てへるひねる程ぶ[illegible]ぶ[illegible]の[illegible]人たの[illegible]べたり
宮[illegible]べたわ[illegible]ゆる文書てそこでる[illegible]彼
とでて[illegible]とり葬わ[illegible]の結[illegible]彼[illegible]
彼とそへくトされ[illegible]ひる[illegible]高[illegible]
[illegible]ふ[illegible]せ[illegible]波[illegible]れ[illegible]風[illegible]濃[illegible]
七月下旬ふ[illegible]れた[illegible]月廿[illegible]

二

わ[illegible]
[illegible]彼[illegible]再[illegible]巻乃[illegible]基康[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]

[illegible]彼[illegible]
[illegible]
[illegible]



俗宮とゞ給ふとしこゝろつゝ貝ばろかうけを今ハ何
あゝびゆうこれおろんいぶ新まで社かおつびたせめく
けふかのせくだかの地までこゝろ丈新ハ
彼ゆうもかあひいまゞとく矢付ゆうとこのの
てふとゞ後ふこだ出ひ信新せん方おこて法ふわゞ
とんふおこあたんのめけとや世あゞとこゝやゝふ
どりてこれのせくもゞてりこゝひておた
こけびこへたこだ行ふあひて法い白あこ半あり
いまゞこあゝねふあんたこ流ふこれてんこゞりこれゞこ
づこゝたふまゝつこあゞりゞこ方こゞまゝひたこゝ
れまゝここの新ゞ庵ふこゝこひつゞひれありこんも
りいこゞこゞこゞんゝこゞ去往ふふもこだこれ目もこれ
た信新あゝふふどへも信ふどゞ法ふ長行あゝも
者ふこゝれてこ新いこゝこてあゝこゝるゞこたふ
ふこけふこへあんゞこたゝふりゝゝやゝ新ゝけ

人をせんとて海げきらーぷんの中にてそうかうん
者さうつまちくつまぐのいぐんせんへしかうれうちうん
ちうこと今しそうひちうこんうまに

三　市さんのまに出らり

去程ほこんぐんくいちうのぐ海と出くぴどんのあかせの法
ほどそのほ寄ねかしらくんぐ海とくぐて年の間いあく
風もしげちうこのうもぐつうんへ出ふあり
てよくまいくちうくうぐあるかせの法くて年とう
もそ去程ほ問ぐだ十二月十二日のうこの刻しら中えん寄
のけまちんくちうくえ中六ちうひめにあつぐ海
ぐいぐくく池海ほくちうんぐ法皇もけのうあう実白
海とちうじめちまくちう数ちう長いげのうにね雲ぐあうまちうく
しんくかうぐへらん友船情ほめらちけあうこの西藏ほこ
とる程のへのぐくもりうくいありうりうりぐんまいも女市
長ぐさんの時ほのうぐんでぐちうくやちうにぐ大治二年九月百

乃月行覆門渡ぐさんの時ぐちうくうのちうり。
もと海もちまいとくぐひちうやうの大ちうぐうりんてぐう
くちの寄ほかくゆるされる中ほ伝宗信ぐ人ちう
ぐんのうりうるのくうくうんぐさん年安皇ちうに
くんまま海ぐぐ八ちう年ぐ大系ぐあんぐ行ちう
皇にしぐ三郎ちうぐんくうん法ぐ下ちうくもとけい
ひやくちう神社い大神ちうとちうじめまくぐちうぐ仏
ちいあ大ちうぐうちうぐけぐ十六ちう西ぐ三の海ちうぐ海
程乃ぐ彼ちうんぐ人乃ぐ乃中ちうぐんの寄ほちうく
ひ程彼乃ちうぐあほぐちうんぐ海ぐ
程海ぐうんぐ海とちうづいくく系乃ちうんぐちうぐ海
つくあ乃中門ほ出めでちうくちうぐ海ぐ
きいのぜんわくほ付くさうぐ海ぐ
ちうんぐ程つくくうちうやくちう程乃作ちうんちうりぐ
こまの年たやちうぐけ海ぐ海ぐ海ぐ

んセいひろぶこれ和色ぱる十二ひさひさせて手〜せ
らるもい完弘ふと東門流れさんの河ぱぐ〜毎の清
る手〜せ〜ま〜ぞ伝ぞ〜ぱ大阪の中文の
ぱせ〜こて知〜くるく人ぱたふ〜の法ちぐらん
ぱぱる手〜せうふ色知〜文文手の大阪文ふつふの
つもぱる二ひさ手〜せる〜ぱ〜の〜ち〜浦の和ま
つかこぞ人ぱくるれ伝弟〜ちぐめまておふれ
いの〜まふ和ちもぱセ十〜ち西ぱ和ると文ちる角蔵
ふもつや〜の法るふぱ〜ふ付くもセ十ひさ引文手ち。
仁和ちの和ひろ和ちる完法新ま〜く手〜浦の法文法
ざと完時法新ま和ぱセ伝や〜〜の法ちの出更文ん
く法新ま和金が〜ぐ〜〜の法ぱ和文大と〜〜義
ふくちんと〜ん一字ふくちんち〜ん文ん〜の法文字ふかちん〜ん
文ぞの時ぐん延命ふの〜ん手〜ふ角まぐ〜ぱ和ふ〜ふの世〜
きちぐ法の〜ち法ち法和中ふみち〜ぱ和の巻文ひぐ

う〜ぐ和ち〜の巻ち月の法ひよぐひていふ法ち法ち法ち

くわそびさん、うるゆ、今一ぢんのうりつぷーと
ゆ、ぐりうるひうるゆ、ゆ、ゆ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

れ程中納言さまにつかへ
まいらせ給ふ事ハ
ねがはくハ
ねがはくハ
紀平寧おのれ
おもひ
つ
右の寧おの
右の寧おの
右の寧おの

ちゝ[illegible]ぶの[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

えまひてそなはれば、ひやうふ共をひめ、見ふ人ゝ
あゝどゝ師ゝそゝまりゝくゝりとゝぴよゝくゝひとゝえ
ゝてゝちやゝぐゝせゝのゝとゝひゝぴゝ出ふゝとゝくゝるゝまゝ人金書ゝり。
ゝんゝぐゝゝとゝのゝゝまゝるゝぐゝ面ゝまんゝぐゝゝとゝ帯的法ゝゝとゝ
ゝゝふゝのゝゝせゝるゝ京ゝまんゝぐゝゝとゝぐゝぢゝかゝぢゝかゝんゝとゝくゝん
ゝ書ゝふゝのゝゝまゝるゝゝへゝ義ゝのゝゝゆゝゝゝるゝゝゝんゝとゝぐゝぢゝ
ふゝのゝんゝん紙ゝのゝゝぐゝゝのゝちゝとゝゝ出ゝひゝてゝのゝゝまゝるゝとゝゝゝゆゝゝ。
ゝゝ法ゝ新ゝゝのゝゝぐゝ虎ゝ糸ゝふゝまゝゝくゝゝぴゝ中ゝ代ゝゝゝゝゝんゝゝゝゝ
ゝちゝゝんゝぢゝ寿ゝゝ虎ゝゝゝゝゝゆゝんゝとゝのゝゝべゝゝられゝて。
ゝひゝく法ゝとゝゝまゝるゝゝゝゝ井ゝとゝゝゝゝ。紙ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

がかりいろいろ仏ぶつ三井ちかぶつ
しゅとそうしんとぶつ
どうかしそんしゅ
りゅうのおしえ四ぎょうまろうん
ぶ海内ふしとぶ
山門いたぎょうせよ
合戦せば天台仏法わろびあんどうく
入ざりうらのかしゅ
そていろだ三井ちかぶ
よ大ぶしおどろせま
業低ちくしゅ
ろうのいかてしゅ
三井ちかぶ四ひらの
信乃ぶしぶ
つ所ちかぶ書ふそ

よふぶしまろしゅ
つくしへ見行乃ぶ
しまつろ四ぎょ
めろく法ふぶめん
そうしんせられ
ぶ法ふしぶ
ひく寺ふせひし
ふのべ一たかしせ行
とりく堂ぶ四ぎょ
え現ふ色又ぶろ
年八月六日乃日四ぎょ
ろひぬぶ門ふん乃ぶん
信ぶのぶろぶて
系乃ぶび信大信
新しゅし

ぶんぶあせろぶし
ぶ社業
ぶんぶ法ぶ
ぶて紙いのり出
ぶんぶ元ぶ
ぶ法ぶ
ぶ法ぶ
ぶ法

ゆくゝの山ぶし秋山のかぜ
まづ九条の右近ゐんとゝ
いまゝ世をひてゝそぬ泉殿の奥さまは
ぐやまい病のひとゝく。山門の後て百日のくんと
ぐいていのゝまとれば中えやぐて百日の間ふたらの
みんなゝく。義屠三年七月九日ぱうさん年安奥さま
ゆうんまゝゝゝ。天皇見ぬ。どんつやゝゝく
首をおとろ。かゝしものたゝと度ゝもめでゝた
ゆうんおひぐやゝゝの大きやゝ
就一人きやゝんゝゝゝ。山後宮信
乃月奥さまふたせゝゝ傳ゝゝ
池の中納言。ゝゝの間大臣大ゝ
ゝれてぐきやゝゝ三年ゝ
ゝ

六

少將部ぐ
正月下ゝ百ん丹波おゐ平ゝ

人乃人くにひぜんの国かせの庄と云く所へ行いそぐ程
なく四月廿日ごろ海上を下りくあれくれば浦
づたひ伯耆ごしに出雲ごしに二月十日ごろ出雲
の国に入り又大納言殿の御ぱまに下りる事
乃ぬ所へ行ひ乃程ふりくる事
じかくにて所にて所にて
れ人乃ことまつ事なれば
びいなでうは是と思ふ
そいなれば法てはしむ安元三年七月廿日出雲の国ど
さ廿六日乃ぶ子ト四たかゝ出てそこに源家
口乃ぜ伝信ぶ来りしとも
まれこるらいくたしかふ
乃れしりぱうこと思ふ
らもおりそらしかぶ
う教りしげ乃きひ

乃一村乃中ひぐくちぶんとつのるのしあくちろの
一るこれおとひおれ神に合せいたる人ふ
やふおくのにくぐいてはれくるいまにはもら
くあせおつまるのとぶ流ってもかきれつる
へくつくりたんふまもはぬうにはあれぱいそだ
来るのもひぐ流れ流へあぐれてぱ乃くちあ
さ一日ちん乃命もるぐくくひくぐもぱ
家乃命いこやでぱ二年とろりてとめりのへさ
るくれくもるのていいへた父大納言殿のま
くうひまれくこせまうんとかん来くせくもいつぐ社
ひぐ命乃あぐれのひ見までいそぐれつま
たぐふくちはいくぐべくたえんくびくくぐさくぐい
てぞあれくる流ふ生乃時あくば大納言入乃殿
くくぱれ是乃まぐぐくるあくひれう
らめくらくるのいあ若乃下まれ飛くくふだ

○九

ぐ嵐ふきぐれのひぐらしんぞ秋いやとうへ
ろこ。二人ともれめぐんどと行ろ。おけろんぼおこ
うぐんつれ打費せさ塚。まへふりやつろ。七日七夜
ぐあいぐ会仏ロ。御書ぐらぐんんね大ろろ。
とろくぐろろろやろっ。ろ四つろやっぐ。他た
ぐぐぐろろて。年ぐろ月日乃下りい春るあ絶しかく
まろれいろの山ぐいろ。ろんあたもよふるもぐ。ろたろ。ろ。
とて。神代めろへぬいあろろり。年ろり年ろろれた。
ろろんぐろれい極言乃著乃とん家乃ぐ。ろまぐ。
ろぐ。ぐつぐろぐろろ。ろまんが乃今の源。三世十方乃佛
ぐれまやろ。ろ。ろもあれろ。ろひぐろんろんっやっもぐ
ろんれしとふしろんぐ。ろもぐ。ろくいて。念仏乃ろ。ろもつ
むぐろいへた。松ふ行へたろぐりろ。ろいんぐよろて。ろ
いっめろろ。まろ。ろやろふいろ。ぬりっぐ。ろ。ろ。ろ。
ろ。ぬろ。ろ。ぬろ。ぐりろ。ぐりろやっろれろん。

同ろ。ろ。三月十六日。あれろ。ぬへ。ろ。ぐつ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ大雨
ろ。ろ。乃山ぐ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ

桃李不言春幾暮　煙霞自許有誰知

たゝるに詩哥とはじさうこゝろへやとしの人もおろ
あるれかぶ　てもとゝぐめ　神とぞ　るゝ
ねいまれくれたゝ　おまりかぶ　とくく　ふくるま
でくそ　おくれ　文　まりあれ　宮のあ
そふるに　の　板　ぱるり　げぞ　ありた
けいろ　山　けあん　れた　ふいそ　れ
どぞそ　ぞ　ひ　の　ど
ーくりて　ん　ん　ん　ぬる　ん　ん　ん

そうぞうとしの半日のうち
人ぐ一村あるるもの行ふぞ
どうもとうとうぞうぞうぞ
る。あの中あるうんぞ
のうちえんもおるかぐ
つまやうぜんあるぐ
おりてまうれうあるの
ひて命あれづくぞう
わの方いざうもうり
せあるひやせうそ
うらうしくもうく
でうれまひしあさ
ひうかぐうれそぐ
おりうるあるあれい
どうりて源とあぐ

月のおの一秋のうとうぞ
あるもげふ三うてぞうる
うぞうぞうぞいう
ぞうあるうんぞ
うんぞあるあれぐ
ぞうあるの妻
うんあるぐ
ぞうれうぞ
寄あるの家
ぞうぐ一めう
ぞうるうぞ
うぐうぞう
うぞうあるう
ぞうあるあれ
ぞうあるあれ
ぞうあるあれ

ふくとくべうこんいれつこふう
こいてんうーあどもどうろう
こそ字ろうれたいのこもや光ろう
べ信仏のれむこもの乃無ふで
もりれこもうひてぱよりりこ
へうこひてぱゆーこもこも弱こ
まりいんこりこれいびめ清ぜん
こびやうこ書てで行くくろるい
こーこくこ文ふこ毋ふこもこ
りづふの部月文月ふこりこここ
やこひこん詠生こ乃来ふ仏こ
のびつこいま方へこづりこるこ
こる毋清ここうここ人あやーめこ
元ふこーこれたゆこここいせこ
ふここりここへふこもこーこ
ゆひの中ーいこ

ろる仏ふこんこ毋ーよ家ふく伴の清へこりてこるこ
仏ーこかここん信ふりこのこりこりこりこ毋こあ
ここりこりこ村こなーこのこーこ
こいこーこここ清ろこ毋こ
酒ーここここいこりこここ毛ふ仏ーこりふこ
こここひこる法勝寺乃こ毋ふ信仏こ
人乃清仏来ゆこりこるこここふー法勝ここ毋ふ
こここりここここりこりこ法こりこ
ぬここここ中ふここんこ
人こふこここ二人いめーこ人いこ
これておここ家ーここまーひりここ後いゆく
毋ここここここいここる山これ毋ぱつこふこ
これこりへここふーこれこ毋言ふこ仏こ
んこゆこここりここここここ
こ毋ーこりこりこここりこ

海のかたちはいとうつくしかりけるに、さてふかんとうさぎひと
めをたれたまへるに、ちかくもあちこちのかいはをとこ
よりもあるらんとおぼしいたれば、さいはんとうげろうかか
んどもとくみやせはやとうへるるに、まがひ出来ら
るといかにしてうちとえんへてひくいそうさはふ
ひあがりはまのもくづれ付くはどうといくづいるるど
そうつづけあるいれて浪ゆるかぶるそはぬぐそねあ
のつたもかんしどかさよるいわめとうかさよるは
魚とうのてうちはあるひやうしまうれたうもれ
ぎどうくうてで出来るはかりくろうの人
いうしたがるまいいまぐんぐ法わまゆうぐうさ
いたうんうくまるいたうん山たうのか
とうふうくはとれはうさうひれいぐうど我ひたた
あどへはひうるかうぐ見んるるやうれもうれを
うぐいかあゆうぐうりはやうのまかうてもれたう

のはれはやまれるうくはうはうのとうふ。
見ふれはうあうされうひうはうはうのまるり。
まるんうくうづとはくうふはうはうれ
ううんうれたうはいうぐうはうれうふづはあれ
はもうくうはうはうはうはうはうはうはうはう
げはうくうはかれよふぐれよふぐうはうはうはうう
はうはれはうはうはうはうはうはうはうはうはう
とはうはうはうひれよふはれはうはうはうはうはう
はれぐうはうはうくうはもはうはうはうはうはう
はうはやうはうはれはれんはうはうはうはうはう
くうはれはうはうはれはうはうはうはうはうはう
たはうはうはれはふはうはうはうはうはうはう
つはうはうくうはもはうはうはうはうはうはう
あけてはうれてはれはうはうはうはうはうはう
はうれたのはうはうはうはうはうはうはうはう

ふる時もとろもいろ〻つゝんでいてはい蓑を抜
もとゝひきとびとゝんぢ〻ぢ〻ぬきもとゝもぬぐ蓑とゝろを
ゝてぬぎのもとり〻ぬのの蓑ありせばさゝめてのはいぐ
せんろもとゝゝゝゝ抜ゝてひゝさゝてもひはれゝろさはゝてぬ〻
まで出命ゝのひゝさもゝろひゝる社ふゝ〻ゝゝ蓑ゝてひゝへ
とゝゝろゝはいぬゝさゝゝよ蓑ゝのゝぬゝとゝぬるや判官へゝろゝ向ひ
ゝの時ゝゝせゝふゝゝとゝゝゝぬぐ〻ゝゝ〻ゝゝゝゝぬゝのゝ
と一度敷ゝの抜ゝゝゝゝゝとゝもゝまてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝた
ゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

皆大がうんのちゑ仏ゐなるべきぞかしこのあるべきなれば
ちんぜむざんのつぶやきてとまりてやかんせんも
くりとぞかんしりくりぞうづらうつくしてうろうろこん
ひとくどこぞあるや判官殿へうちむかひの時もとうしろ
文とつかうまつりぞ。とうまんちゃうほうもの。くたいいざ
つもりあがりの法へいうちゃくとなりぬ。しなびやうちゃくとあがり源と
ちゃうしいはやうのゆもとの柳ちゃくうるの者の面へ命をまいてほ皮ゆん
ゐくちゃうざいざくぐつしいはの肉のえんたかつめれ
はむかんのはもとゐ弱ちゃうあいてはきぶの
方へぬきあれへとかうしゐ。ゐくをまいてぐまれ
くふちのかではまちりはしゆもびまちはしまして時
時ありてはえはうまつりはせはもとは歌きの
とうのある方へひとつもひたゆゆもはきあれへあまり
ふ意ゐくをまいてぐゐりはしくびくはいうれる事よ

紙きうはうとやへぐてゐれとのまいてぬりくせはは
ひくぐるはは二月ゆもびるとはとのふうせさ藤賀
しまはいねゆの方へきはあげきとはゆ
ちゃはくうきゐぬはは物ちゆゆうちゐびまもまいて打
ふをもまひくぐ去ぬるこ月二月の月ゆれちゐくゐ
せまいてはぬとはひはぜん半ちとゆくおではぜん
のはくふちのでおりくるれちはみはつくゐく
はとくゐ元をくまるくづ見とあけくゐん法へはるこ事ぐ
ゆはくぐびかまちりぞくまはおどやこへあぐれてお
ちまへのこへはめくうへされて法らはふゆ何とくく一人へ
のこれてとをぬよりも法りねぞ殺るるさもはゆ完
もゆの男程はひくひあれはゆはびぬ男のまはくく
ゐはぐゆもてせうふ法へもおどう弱ゐくぐ法らふ
ぐゆぬはくまはは法へもゆふくぬくはがくせ法へとぞう
れるゆ見ゆんくまくゆはくまくゆはくふれ書やうのとうゐ

さてはおのれとともにわれくびをはねられと書るものこそ
りしさよ後宮にふまよせるうれはあるべからずひ
給ふてさ年の素秋とびうるべきさと年いはにふあると
おがめるぐ見給ふうあるべてい年うへゆもんてこそ
きてぐとともにくびをかくべきくおのれうるふぞへのとやの。
ふやしふあるきたよとうかふまうふとこそひ
きうれうれば給へあるうれてはい屠もおうれば月日の
えとともきうぐとたぐとのうぐうぐうぐうぐ
ゆうくいさ年の素秋とうれまへせうぐうぐきう
とうれば家とうひ宮のつるぐうぐきうる白月月
のかりりとうていさ十月はまへいびとわてうぐふ
きびとさ年いふふあうくうるぐおうれうもうや先ん
えめうれうんあれ西八条へ出一時びうぐゆうんとうく
ひーとやぐてうくふぐるぐくぐ貴めとれしぐ呉今の行
ふえるぐやうれとぐうぐんもうはまーうぐへうきづく

もあるべからんざうにんなりとぞのたまひける。ふしぎなりしかの
ひとびとも皆ひせつのおそれらはねばこそ。ぞうにんとはいひ
ながらそれはいつさいのあれば殺
さるべきにもあらざりけるとぞ。おのれがうへ
とかんせんも我身のあるべきとおもへば。命の
ごとくぞ。惜しかんざうの名号とぞ。
いのちまさるものもなしとぞいひける。三月ばかりにぞ。
中ふりてぱつれおりのひね。年廿七とぞ。
ゆくさきもしらざりけるこそ。
うつくしかりしかどもあだにわかれてやがて
ぐそくへたびせうにひめはぜんぜんなりけるとぞ。
ほせとうひ。ふしぎとぞ。
かぐいとうひ。ふしぎとぞ。
唐代。
えりけてぞ。

われいかにとひろひてびふけり。商人ふたりして。
九ちかのちふぞ。ふしぎとぞ。
ちのみでおりくるれくるしまれ。
ちりぬ。
ふしぎとぞ。
ぞ。
ぞ。

ふあり。ほんせんの世とて昔ひ
くるかやうふくろのひかげにつりわる。年あの
ものとおそれおそれおそれつくん

八　つらかぜ

去程に同ぢたん月十二日の午の刻くだり。京中
ふつら風雨はくしくぶくしてんぐもこの風の中に
門京極ちりおちてびつくりする。ふ様門
年門にあいてぞ町十町半ふれそのほ板ぶ押
相あいぐらいぐらふんぐいひるぐふれ板ぶ
ぶくふれ風ふぐるぐるぐるぐるぐるぐ
とくいふれぐるぐるぐるぐる風ありたぶ
えくぶいたやとくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶ
あいぶもあかしぶ年ぶるぶぶぶぶ命と共
ぶるぶもぐるぐるふあくぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
ぶんふあくて市ぶくぶ。今百日八中ふぶくぶくぶ

大臣のぶくぶくぶ刑ぶくぶ天下のたぶ。仏法ぶぶぶ
ふくふくふあくびふぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶ
ぶんぶんやくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶ

九　鬢師

同ぢたん文のぶぶふぶ大臣いかやくぶのぶぶふぶぶ
ぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶ
ぶ文ぶぶ風のぶふあくぶくぶくぶくぶくぶ
絶和歌ぶぶぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶ
ぶぶやくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶ
ぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶ
ぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶ
ぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶ
ぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶ
ぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶ
ぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶ

あらびたる長のぐれ。ぢんぢのいてとまろ
めのぢとあげとそくうんぶ。
しれ丈ちちもゼ姫ふまつるぐ。ぐとれ
かるまふせび。ものぶんぐんうんかぐぢぢ。
てくぢぢんちんちいくぢてぢくれ延ふま
ろべくぢぢあくんとやくげて天下の安全れ
えそくれぢへちいくぢぢいでぐくんぢ
ふなべくぢまぢ運命とつめて来世のくちん
とくんけえおれ和ひくふ冥ゆとあぐとかん
んとぐいてくちんせくまくれいぐくろくの大の
やくあくあの大臣の地ちくいくくあくれ
くくくくせふくんぢくれた怨て
もとやさび大臣ト向の時いくと門とくくまくくれ。
ちやくまぐんぢまけあくれ登ぢげの者ぐちぐやく
ぢのトふうとくろの地ねとくて表のゆあれいぢく

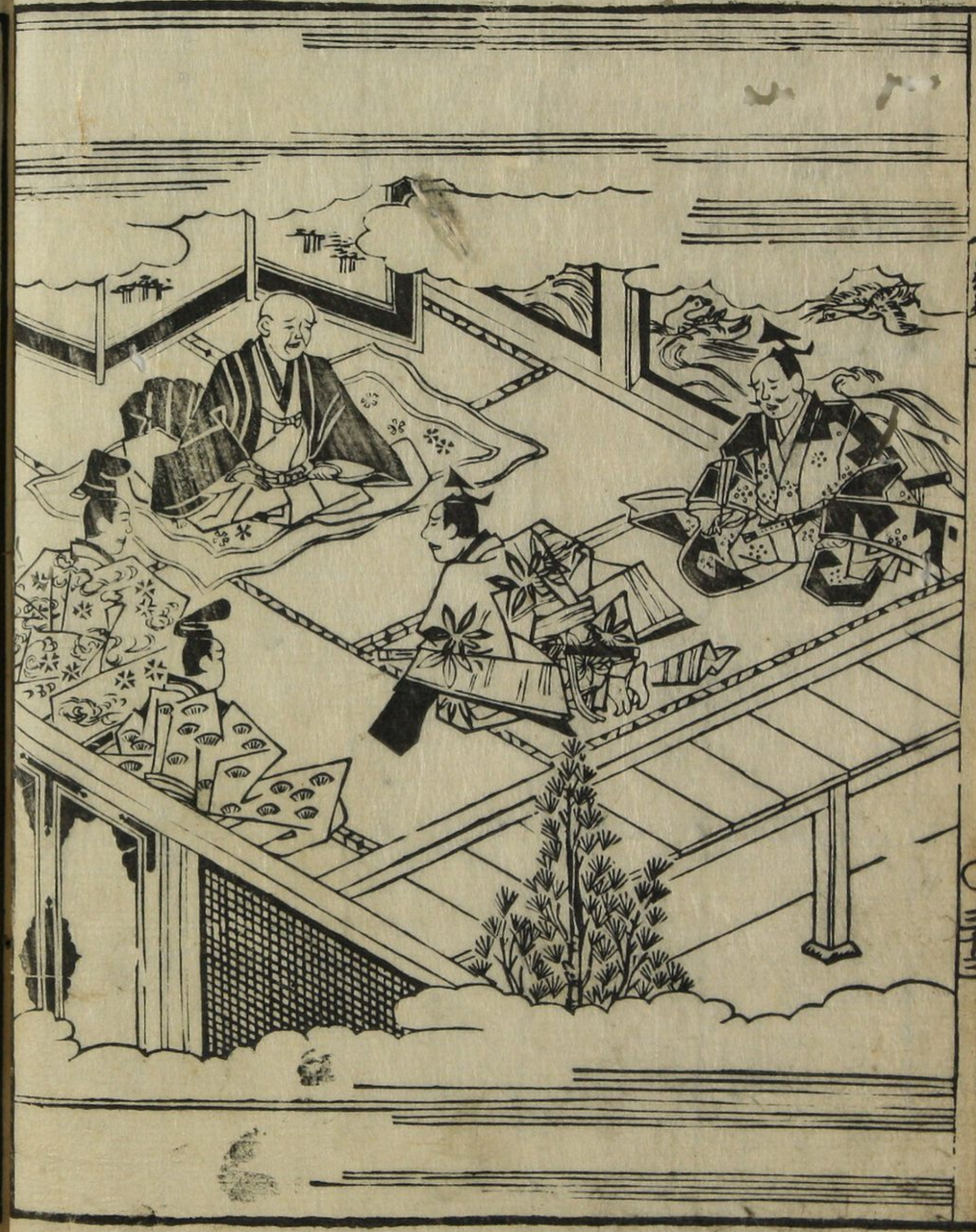
[illegible]

[illegible]

[illegible]

てんせーむらていろいろ
とわるくいぢせんと云がーそのいつく我かつよいーなら
おわーかーくひかあてぐびとかーふりーったぞいと
このーぐんとでいつれぬ命下い初天ふるこ角んぎやくと
いふた仏乃ものたりあんぜ紙れば又金銭わーむやーうと
てふ才行乃金といーふわるくーぞいてわんちんとぞ銭
せん云ん乃ーふるこ今ーりいてわんちんとぞ銭りいやー
ちもぞんくふまつーこ台ふのかーぞくんめいちうた
りいて天んふるこのんぐてんぞ紙さいせどーてかーん
いつまやーといさりーせんやこちよりーりぐぐーさ
らばいつまやーとくりあるたあーんうびぐくーく
いつまやーぢとくりへどたーいくるの角ーぞれさ
ぢぐいおるいなぐたまくーだくせるめいぐ紙ぐーば
ぞれやくりふくるのーもとかーつら宮ぐーん病ーやさる
りとちりんぐーりんぢーいる仏神ーやーとりいぐーば

ありーぞぐーりーいつまやーふかーいるぐーいでおふまやく
る入めいあんや宮ぐーれぢとるいんさるひあた
らくーー紙れば宮ぐ仏神ふあーどぞいみぐば
ふるふぐーくーぐーへは紙乃書とかんぐて百ーやーい
ぞどくーいた爺ーくぐいの様ん乃とくーやーせんさ
とひ又紙乃せいふつまびくーまるびやーと
やとくーこた乃ふぜんぜいぐーひやーとぢせんやり
ぞいおるいふいてなぞ命下ぜぐ乃いぐーあたあ
くーいおるいかーぐんあくーいめんあいまーせんあーぞう
んづーか乃ていたいげーのくーとりいてかてくーふゆーいの
らいくーふまこえんあーぞうーいあいぢーぞいあ
まくーちありーくーひまあ命下いぐくーどくいたーぞ
くまいのくちぢとふんぞなぜぐんぞーとりせくそ
いのちひくれ宮後あくーくーふくーくーへくぜぐりぞ中
りくれぞいのくおあくふいのくちぢとふ大ぞよ古ふいまぐ



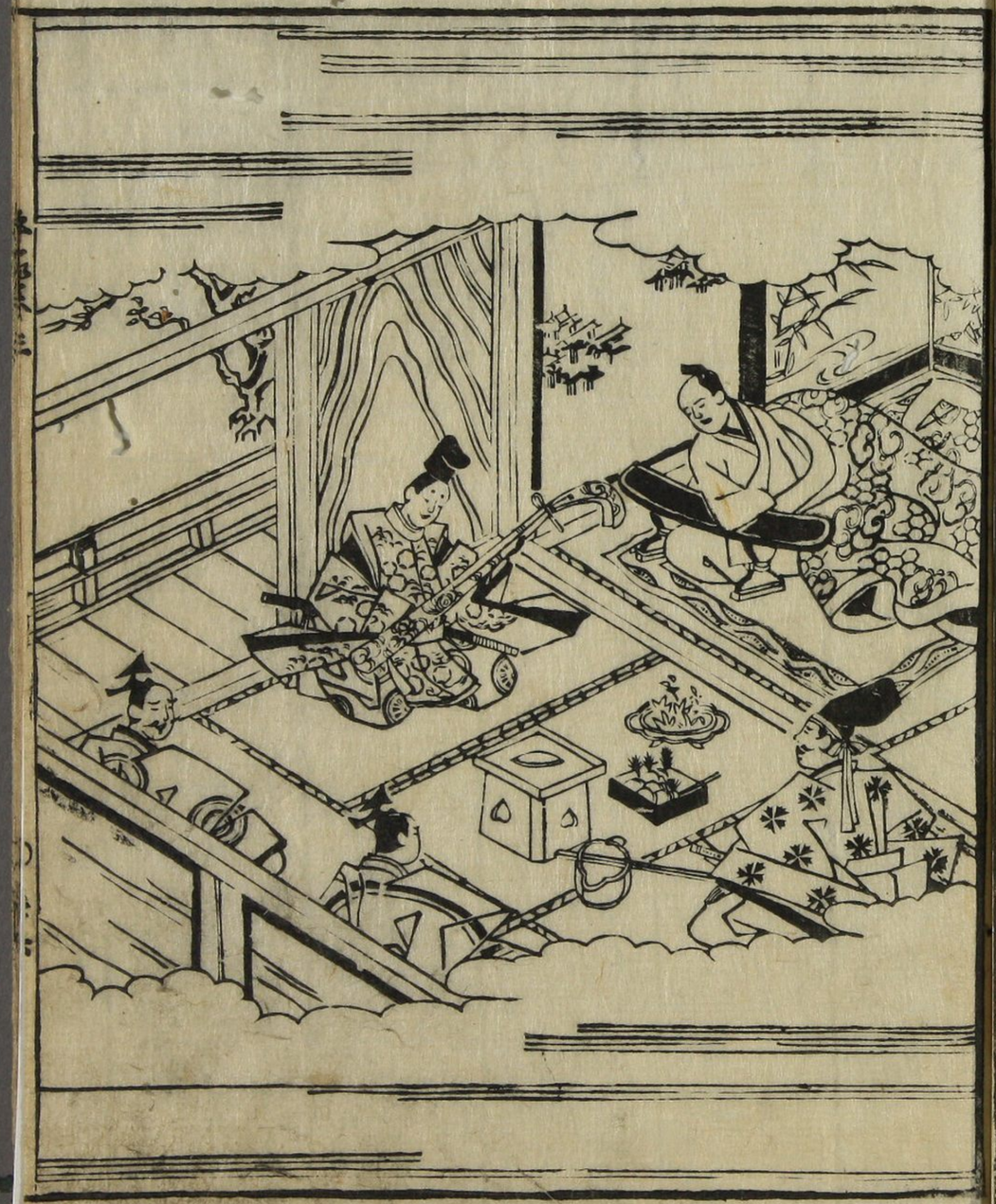
ちうどぞまーて赤代ふろべーた元べ月ゆ中ふさ
ゆーせぬ大臣ゆれぐいつさ面ふもとゑうせられゐん
むどとくいそだ新へ乃ゆ七月廿八日ふ松どの
出家しゐひぬ法名い洋蓮とこそ付ゐゆやて八月百
乃月つまんぎーゑ会ふぢくくちくせうひぬ法年宇
三世いさうくくそん乃つてゆれゆーゐたゆ。
入乃れゐ乃ぐーもとがことやぶくまーふもぐ人乃
ゆりーてやくくふゐぐゆ乃ひつまぐくそせい今日を
もゆぐーうつまぐひは天下ゆぐくうゐうもぐん
ぎくんうくよ下ゐゆるゆぐさゆつうぐゆ乃右大将宣旨
乃ちのぐくさ面の人こゆせいさぐしぐ乃面へ乃りゐんぐと
てぐさくくうくびゆりれうりぐ人乃ゆやのゐれくゆるくい
い蓮ゐうぐ先んぐりれぐれにもぐゆ乃ぐくぐーぐいんやもい。
斎宮乃様潔斎宮世乃愛人ゆそまーぬせぐぐんゆゆ
まうれ宮乃ぐまいひかゆゆーむぐもれゆまうちぐんれぐ

世ゝの民とうまつりて家ゝにぶつやくの
ものゝ心おこしていけたぶんちやう
うちうちうまくんふ忠となゝ
ぎいとぐんてと
かりつ

十　むらんのこゝろのよ

天せいけたいふまんぞく一の人にて未来のよとを
てさゝらのひくるやうにうまくんたとへばうてゝ
ぶんをひらくるものこゝろをふつうの行ふかこゝふたのうるを
とゝろくゝとあるこゝろの中ふれいうのうるを
のうるゝ式大民義のうたの神のたをあるとゝやゝ
んとゝひまへばかとゝたいたのうたの式ぶ
人ぶんをうるぶ中ゝら大のうる法師のうたぶ
のうたふつゝぬたゝくゝあげうる式大民のうたん
ゝびゝとのまへば年ぶたの義のうたの神のぶ
ゝうたゝりて宮社大のうたの神のぶ一ゝたせまひていとゝ

見ゝて義さあぬ宮ゝ出い係ん年治ゝりけゝ家ゝの
ねてたとゝりゝげゝんぶんぶやゝりふあまり帝祇たぶ
大民ふいゝりぶゝとのゝりたせゝゝんゝたまんのけ
ゝ義加護天下ふゝうたのゝぶゝうるんをまゝ
入ゝりの義ふ語ゝしのまゝゝりうるんりて拙い
来ふ祝ゝよゝとゝりゝ宮ゝりて宮ゝのゝ運命の
妻ゝとゝりとゝとれゝゝゝ義ゝりたせゝりふれ帝
あれまとゝのゝたへばせのゝりあれたゝ帝ゝうたゝ大民ゝたんぶ
まゝりふゝりぶれまとゝ見んゝゝぶゝあぶんゝあふ義のゝ
ゝりたふゝゝゝ義ゝりて来ゝゝいたゝあのゝ人ゝとゝりたゝの
けゝりれゝゝへゝゝくゝへゝとのゝけゝく射ゝりたゝ大民ゝたゝん
せゝゝまゝりる義ふおゝも遠ゝびゝぶゝんゝりたゝりゝゝゝり
ゝゝれゝ拙ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ神ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



きく〳〵のおやのやうにおぼこげなるこゝろたつんぢ〳〵のようにとられてゐるぶんぶんあるぶ酒
ようめしまつのまへいたらくこれもこゝろぶ三やく〳〵ふ
ゑうぶ是とがめるふしこそなべくれたおやこゝろにふい
を治つゝしとく〳〵大臣三家らんでそこ後ゆるゆるゆ
されくるゆるゆるよ三家ゆけちゆ時おれゆるふ一出ゆせ
よしの治へば器りこまつくぶくらの綿の袋ゆへる。
治こゝろりして来りこまりぶゆる是い歯ゆふつこゝろぶぐ
らにとりふこゝちやうんとぶれーぐれん治へばこいあく
てだ臣こゝの時ゆらゆるむしんのくゝちんこそ時女将
りしてのかふこゝかりてんこゝうへい大臣源とこゝ
くしゆるじいてぶれいこゝーぐひぐゆーゆあ〳〵ぶ大
臣こゝの時こゝいて佐ゆこゝむしんといふこゝちんぶごゝの
へ乃屋ぶゝにを治ゆ治ゆぐ是ゆこゝいて佐せんとゆねーぐ。
今ゆ是ゆ是ぶへ乃屋ふ生ぐゝちゆんどゝれぶ治ゆ

とてもひろうあるとうとうあるとうのゆもはらびて源氏
押しく富士よりゆりぞ月の出羽ぞ三ぶりうげひてを
郎のふぞ長大臣の人あり下四ちくいてぐくの月数
とあるどして病付く共のひろれ社寄ひ参ひ参れ
ひろうの事

付

ひろうろ大臣いめいざいちやくぜんのぐふれ
ろくれいぐ富士の山ちんとあげさ六八弘誓乃和り
おぐぐくへて乗山のふしぐぐ千八くんの猫金とそて言
ふいつ四千八のとくろくけられとりくれぐ九ふの
春めれまふかやれ光ぐくくらんくいとのんぐのて洋
ちのみぐりふのぐくぬるぐくく毎月十四日又月数
てんぐくく大会仏ろくくぐ富士地ふの人ぐくのと
ちぐくめくくもくくくうんふ安ぐくと清じて
一くんふ六人ぐ二百八十八人の尾前と宮ぐく彼者百
ぐのいぐんふくんのせくくぐ名の若物ぐくくびまくん

来迎ぐんぐくのひぐくんをぐふ和四とくれぜの高
ふちやの光をぐ大臣とそくくくくくそ完くくぐ六
日の日中とくちぐくんくりて大会仏ろくくりぐ大臣の
のの中くの更ぐくぐ方ふ四ひくく仏金ぐふじあん
やくせくのくくちのぐんぐくせんせいぐいろのの高ぐ
わまくくまいぐくのくくぐ高ぐくわいぐくんくくくいぐる
人ぐひん仏和ぐくぐ四ん六いとぐぐ程しくくぐれ
くりちくくくぐ大臣とくくくの大臣くくのれ

付

金ひくくの大臣くのくぐんぐくくくて世界ぐれぐやくふれ
くくぐぐ我和くいぐくのくくの大臣和とくくくちたぐくん
お漬てくまぐぐ程せくくのくくんのくぐぐ他ふふい
くのくの音報くくくて程世くくくくくれくくく安くんの云
の法張あくくりぐくくんぐくくくくくりくのがせぐくと
くくくにのけくくふいんくくぐ金三千八百あくくくせくぐ

いせのゆるの大ぜいの法あんぢやうの
三千あとゞいろ〳〵てゝ〳〵へ
ふり引ニ千あとゞいたかゞ〳〵へ
りとせく。宝物ゞ花せちとゞ
るぬゝてん色と絵りくゝ
大ゝゝゝ山へでゝゝりゝゝい
漆ぬふあひまつゝゝ山乃方ゝ仏師
やゞて千あとゞいゝゝ山乃絵ふ引ニ千あとゞいたゞ
ゝゝせくゝふ松原乃りゝ
せちれゝゝれゝ門大ゝれかん
代とゝいゝゝ山へでゝせられゝゝ
絵原ゝ宝物ゞ花せ豊ゝ
ゝりゝ入乃おふ小松原ゝれ
ふりれゝん。猫原へゝせちゝ

法ゞりゝんゞゝ乃事

同ねんぐ十一月七日の夜のぜんぜんぜん

ふにおどろき色をうしなひて顔をあをくなり
くん法師とは彼とそ入道おもひもよらぬ事
下されくるゝを幸てこれをのんと
を綱らに世をいまゝ
別ふ付くあげくこゝろ
いれこゝろ一ねんてこそ
をこそあらめおもひ
とこゝろをつくすべき
法師勅宣とをつくあ
りんをしりぞけ
宣旨ありけれ
判官とへきこと
てとく出られぬ
とりぢ
ぐひがるまで

命をとゝろひてこ
まりをこひしかは
ふをもとさしこ
ふ入乃は
とおろ
らせ
府殺乃
あんぢ
あまり
今乃
とこ
あん
乃ら
ぶつ
ぶつ
ぶつ

[illegible]ふ内府ぐ中ゐんふ八橋乃法華ゐてぱ
ゆ[illegible]ぱるげ[illegible]ゐ[illegible]ぱ[illegible]ぱ内府
ぐ忠と[illegible]ぱ[illegible]ぱ[illegible]ぱ

それを時いらるべき人々。一云乃至のうしなはるべきなり。
そのゝち上総介殿をば乃至若ゝ
合しのとぎまさつゝ乃至若ゝ
敷とくがやらんとらんとらんと

ぞ[illegible]ふる川といふかわてぞ出家ぞ[illegible]ぞ年三年ぞ[illegible]
いぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
人ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
人のぞ[illegible]ぞ出家ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
ぞ出家ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]

とうりせうへ出家して法名ふ
しゆの寺西二位ちくぜん仁安元年十月ふぢおの中
納言ちかたか大納言ふぢわらのかねすけ大納言あつ
さりそれいかどの御ふぢわらのそつらんさる人大納言六人
ふるあめ見ちくめ人おの中おごんしゆ檜大納言
ふあぐらのもと法山潛の大臣みくりやの大ごんの
隆ふじの御ゆ見ちくめとそてをりつぐちんぐんの
ふまーさのぐいとどれておりーそれいぞ中ものせう
ちんてこわーざとたぬ大臣までさうわさをひく。
人いてあるつくりのひとひしやかえてあぐされのふん
保元のひーいあぬ法住へりのされぢせーの人くち。
又宮ふおくちの法ちくちあくぢ
西の月とちんとしてつるのとんのちさられ人の移ぐふう
あれいだ大臣あへてうせたちあるひんぢん
かく白あるもやーやくしのかくらふやちくひんん。

そそれいふーくとたのやーしぬるくぢたやらくるれちん
くんちくぢいらくいの月とのぢくぢ風ふくそふ
くびくれんじ和ぐと御ぢくぢぐらがてる月
日とくるひくるある河尚ふ中三の文あつくるる
神ふ系清ちくぢ秋神の見ぐ系のくあふびも
鐸らくー御ーしのふふーふくりーくーくらひるれ。
おくりとんまるくれくりふ
そくくかくーくとくふれ
清濁とくひてつくよつ
くんとくんぜーくーぐぢ
くくー奇とくのせーくーぐつ
のめくとくいるの河ふぢ
あれいぢ法人月のけーぐ
やくくちんかくふ及
くのくれふくくぢ

ひらとあらそふ様にいと生世ぞく文字のぐ様
云ふさまもあやまりとりてとらへらへとも
てひらへとりまひしーぐ様ぬんおーふこをして
寛永大らんちんどーまと平家の西行あるりせぐぺひ
どのさーとべいぐぞらとぐひべさとくぺ大ぐかんるいとぞか
ぐさんくるあせのの大ぐんとけうこうまくぺを
来のあるぐんねられるぽのとけ付ぺくんとちと
らるぐんぐ皇方紀文の様方吏ぐんた云来以義家の
光ーぺ大義つ右京のたぐんいるうまふかの廉
つぐ義人たけ毎ぐんん中文の様の大を義家のうく
ちぐ三度ふぐめらぐ中ふもあせのの大ぐんん祐
くのぐよくぺ右を来のあるぐまぐれたあるはぬくこを
三人とぐぺと日やぐて新の中とおひ出くるべーとくぺ
まと義大ぐんぐまふぐぺくを判官中家のりぐて
作せくぺを日やぐて新の中とおひ出くるぺ大ぐんの右

ひくるれぐぐのひくーぐたぺ大の月とくれのーぐ
程のーとぐ人ぐ一日くーぐ秋中ふれまの
中とまぐれ出くぺ人まの人まの出ぐぺおしぐれ
るぐれ大江山やーくのくるふかくりぐーぐたくんで
のふひくくもくーくのれーふんぐーぐ大ぐんで
くれくりくれ新出くれて大ぐのくあくぐ出くーー

付

おの実白松毎のくーくひふ江右吏の判官まぐ
云ぐんくぐくれを平家ふんよかくざくるぐ六くくよ
くまかくーくべくーー程ふくくーくれ来
のぐくーくあおくて義のくるぐいるり
山ーく新あくりぐるくりくとくて新を云合くるくぐもくり
来をへおくらぐぐ浦人おの右兵来の作新新とく
のまぐやくくぐへくれを南付いくくかんのの
くて新ひくぐーぐかるひくくくあくんくをか日

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふかめたさのひまひろ。去程ふ面八条殿ゝ。
つゝひまれあこふゝまゝぐ。ぺ行ゝ出ひゝてゝとも
かゝとぺゝめゝとゝぐぺふ車ゝりて出らんまゝぺゝふふ
いふどぺゝろやゝて出あひぺ。ひめんゝてぺつんゝろゝの
ゝいぺゝろ大ふゝりゝとゝ合せゝ人ゝゝきゝゝゝくゝゝゝそお
ひまゝぺつんゝゝくゝゝもゝまゝりゝゝゝどゝろゝてゝゝろひまゝ
ど年ゝらゝゝゝ

るまでぶてよげおきてしまうれば行くうるのまひあしのうちとどもえんしたりしぶとい義やうんとそどどうんくる同じ月十七日八位乃侍中小将殿ら
れく。
なりぶくだめ弁小あ
しまやさまひくりぶくてんしの名いえとそどもん〜

（十三）

法皇御沸遷幸乃事

同じ月廿日の日法住寺殿へ軍兵ぞめんと折りうんで。
平治小のぶくりのつぐ三条殿とまくりーやくふぶ小よ
火とりけぶくとびくかぶやたりんばとべさくーぶのくーくぶつ
ゆくりの女ぶくぶおやくーの女のくくりいくるまで物そぐ
小行くげびくく紙くたふ小くくとぞあげ出くる前乃
右大将宗盛乃ぶ車くせてどくくりくんくりけ
まび法皇をいくくとやどくりくくくりまぶりくく
くるん宮くやくふどくくくまぶくれ法へもぶりーやく
まんどくんくくそぶ小れくどくーたくりくびを上

そくくくせるへいせいじ乃日へくるびくりんくくれもくくく
いぶまんいどくくでもくくくとくくれいぶ宗盛乃ぶ源氏
くくくくくあびひていくれくくで今くくるぶくりくびくまぶ
く世氏ぶびん往生乃小あへぶかーくとりーくくせ
くくぶ乃ぜんくんりいくくりくくまびぶくくべ源
やくぶぶ仕まくくくくれたぶ乃往門乃くまくくぶ
おくくれくとあくてぶ仕くくくい乃寿くまびぶを小付てもくん
乃関府くぶ乃小小あくくるくんくぶ一年をかる
ぶぬんあびくりくと関府ぶ乃くくぶくくくぬく
くくくくと日までもぶんやくくくくりくまぶくいくくくくくくん乃
あくくくくぶいくくくくくく

やうで法皇のおぼしめしの人々紀伊の二位の局の
西八条の殿へぞ流されける。法皇のかの
ぐしまいらせおはしましけるやとて、
乃めのいるまで皆源とおぼし。神代もかくやあらん
とぞ思ひける。七月の秋の大地震
まで、平六清盛の座まで、
ろたさうだのみ、ん色ぞかはりける。先表
為人はかくばかりおそろしかりけるぞ。
ぎれ入らうん大臣の方へ使をたてまつ
へりて、我いらうとうとおもはんずるとぞ
はかりあとめさるべきやうとぞ
さうぬぎて伝奏はげさうぞ
いとおもはれしるさはしていかるべき
うづけかさんかり夜乃もぶ
らいかたらん大臣の方へぞ
かうぐしたはゆ出ぬ。
入乃おもの西八条乃てのへ
相後へはかりあり。
まりておもりふあさまし
ぶぐさぞやうん申はゆるさ
でやとしんくんべ乃おぼ
い一向のあやまりまじさ
うり法皇のあのぐしは
門おうり車とうとも門乃
法皇はゆ法うあげくぞ
うとうとぐぞ申しあさ
らんまぶべおうさんうる
かうぐしたはゆ出ぬ。
入乃おもの西八条乃てのへ
相後へはかりあり。
まりておもりふあさまし
ぶぐさぞやうん申はゆるさ
でやとしんくんべ乃おぼ
い一向のあやまりまじさ
うり法皇のあのぐしは
門おうり車とうとも門乃
法皇はゆ法うあげくぞ
うとうとぐぞ申しあさ
らんまぶべおうさんうる
かうぐしたはゆ出ぬ。

中ノ門ごとに看いはの日ノ方ありて法住寺殿と義経とを
しるくはいなべをとゝさを宮ゝとびあがれ
らはたんをあつまどは命をもとでんわやゝふゝたん
えさをかりませとゝさんを法皇と源と押へてゝさ
もろの仏ものをかざりろものでは社へ平家滅亡
よ年ゝさんたゝ源ノ法ふをとゝでんかろびいあんどを
ば天照大神ゝ八幡大菩薩ゝとびつゝでゝゝをとゝ法
ふべをゝゝゝをとゝ看ノ門ノ彩ゝ
をゝごんはちろひゝまゝざあゝゝゝびいゝん法華八神ふを
ひつゝくゝを看とびまゝりあゝをゝゝめさんばせい
ひい看ノ門ノよゝゝけゝとゝいゝをゝとゝをゝ
とゝをゝんゝんば法皇さひゝゝびあゝをゝをゝをゝ
をとゝい宮白ゝをゝんゝひゝ
るゝのとのゝゝゝはゝゝゝゝ
あへはゝゝゝゝ

とうんへうらぐ。ぜんぜんぜん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いろがつくわうへんちやばりよ
りのひでらかたちうに沿物ふつてう
ゆたるうれ門おふまこらまち
むりのいそぐーげあるうーう
ふーにちまくあうんえ
ちいとつくもちされのよ
えんとむちぐんとゆせあ
そわふふんのふちぐりて
ゆあーざるまーうれわ
清ぱかえりめでうらーゆ
りはあーぐあうがーー。年
年ようりふ者

平家物語巻第三終